

今年のゴールデンウィークはあまり天候に恵まれず、すっきり晴れる日がなく気温も低い連休でした。

札幌では2年振りに大通公園で『さっぽろライラックまつり』が行われました。新型コロナの影響により中止が続いていましたが、今年は例年より一部縮小し、飲食店などが出店されました。ですが私が行った時は、人数制限の関係で飲食エリアに入場することは出来ませんでした。

札幌市の花は『スズラン』、木は『ライラック』、鳥は『カッコウ』です。ライラックは涼しい気候に適しており、北海道以外に東北地方でもよく見られるようです。

そんな中で北海道民にライラックが広く知れ渡った要因は『さっぽろライラックまつり』と言われています。昭和34年に始まり、今回で第64回目となり、市民に愛されてきたそうです。

私が行った日も小雨交じりで肌寒い気候でした。例年、長い冬から解放された喜びを表すかのように咲き誇るライラックを見ると「初夏が来たな」と感じる北海道民が多いそうですが、私も同じ気持ちになっていきました。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



～旬はわずか3週間～

表面はちょっとざらざら、甘くて酸っぱい、丸い赤紫の実。6月に入ると蘇州の果物店は『楊梅』が主役です。

ヤンメイと呼ばれる直径500円玉ほどの大きさの丸い果物です。日本ではヤマモモとして知られているようですが、日本では一度も見たこと、もちろん食べたこともありませんでした。日本人駐在員のほとんどは中国へ来て初めて口にする果物です。

江蘇省や隣の浙江省、雲南省、広東省など中国では初夏におなじみの庶民のフルーツです。味はサクランボとブドウとイチゴを混ぜたような・・・なかなかうまく表現できません。果物店にも並びますが、野生のものも多く、山登りやゴルフに出かけると途中に楊梅の木をよく見かけます。

私はスーパーで1かご買って冷蔵庫へ。ソファに寝転び、テレビを見ながら食後のデザートに冷えた楊梅をつまむのがこの時期の楽しみです。好きな人は果実酒にしたり、ジューサーでスムージーを作ったりという楽しみ方もあるようです。

実は楊梅は旬の時期がわずか3週間程度と非常に短く、あっという間に果物店からも姿を消してしまいます。野菜や果物は今ではほとんどが年中店頭に並びますが、楊梅は短い初夏の間のみ味わうことのできる自然からの贈り物です。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は岐阜県美濃加茂市にある『ヤマザキマザック工作機博物館』を紹介いたします。

皆さんは『ヤマザキマザック』という工作機械メーカーの名前を耳にしたことはありますか?ここは、そのヤマザキマザックの工作機械をテーマにした博物館になっています。(少し地味に感じるかもしれませんが…)

この博物館はヤマザキマザックが1919年の創業から、100周年を迎えた2019年に記念して、美濃加茂製作所内にオープンしました。館内では18世紀から現代までの工作機械が展示されており、一部の機械は稼働状態で展示されています。それに加えて、現代の工作機械のみで構成された生産ラインがあり、実際に部品の生産現場を見学することができます。

またモノづくり体験室もあり、『やすりがけ作業』やノミのような工具を使い、金属の表面に加工を施す『きさげ作業』を、『現代の名工』や『モノづくりマイスター』に認定された機械仕上げ組み立ての高度熟練技能者から教わることができます。

ミュージアムショップでは『QUICK TURN 200MY』という工作機械のプラモデルを販売しているそうです。(工作機械のプラモデルとは、かなりマニアックですが…)工作機械展示ということで珍しい博物館ですが、一度足を運ばれてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

コロナの影響が出て早くも2年半、現在では自粛モードも徐々に解除されつつありますね。

ところでコロナ禍ではさまざまな商売が形を変えています。旅行ができない分、ご当地グルメがいつもよりパワーアップなど・・・最近では冷凍技術が発達し、瞬間冷凍で保存が利く為、現地でしか食べられなかった物だったり、鮮度が落ちていないお魚だったり家が食べられるなど色々良くなっています。

私の自宅の近所でも数か月に一度、出張スイーツ販売があります。日曜の時間指定で40分ほどの販売で売り切れたら終了。数日前からポストにチラシが入り、北海道レアチーズケーキなどが半額という文字につられて行ってみました。早めに行ったのですが既に行列ができていました。未解凍であれば2ヵ月ほど保存が利く事もあり、複数購入をする人が目立ちました。コロナ禍でお店に行くのをためらう方も多いので、こういう販売もありかと思います。

私も数種類、購入しました。まだ1個しか食べておりませんが、美味しかったのでまた機会があれば購入したいと思いました。

気温も上がり、本格的な夏シーズンももう直ぐという時期になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。体調を崩されませんようご自愛ください。

さて、健康にそろそろ気を使わないといけない(?)年齢になり、「そうだ！登山をしよう!!」と唐突に思い立ったが吉日。先日、初登山に挑戦してきました。場所は『福岡の西海岸』と呼ばれている糸島市にある『十防山(とんぼやま)』。標高535mで初心者挑戦するにはもってこいの山…らしいです。

ゴールデンウィーク中だったので、意外に登山客も多い様子。友人にトレッキングポールを借り、意気揚々と登山開始です。スタートは友人とバカ話をしながら歩き始めたのですが、時間が経つにつれどんどん口数が減っていく有り様(汗)。頂上付近まで登ってきた頃には、森林浴を楽しむ余裕も無く、ただひたすら地面とにらめっこしながら、汗を垂らして登る始末です。

頂上に着いて景色を堪能し、さあ！と思って降り始めたところ膝に違和感が…。一步踏み込む度に膝が笑うのです(笑)。最初は笑う程度だったのですが、3分の1程度まで戻ってきた頃には笑うのを乗り越えて膝が爆笑している状態。残りの標高100m分は休憩を取らないと歩けないくらいまでになってしまい、日頃の運動不足を痛感した初登山となりました。

ただ、やっとのことで頂上に着いて、綺麗な景色を堪能しながら某カップヌードルを食べた時間は最高でした。また登ってみたいと思います。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

インドネシアの季節は乾季と雨季があります。通常乾季は5月から10月まで、雨季は11月から4月までです。ですが最近変な気候が続いており、毎日14、15時頃に雨がよく降ります。

こういった変わった気候の時、インドネシア人は『雨が降ると風邪をひきやすい』と信じています。そのためか最近インフルエンザの感染者数が増え、コロナの感染者数は一時的に減っていました。しかし、1日あたり平均200人だったのが平均1000人と、ここ2~3週間で少し上がり始めています。

感染者数が増えても国民に「怖い」「気を付ける」「心配」という心構えはほとんどありません。具体的にジャカルタ、西ジャワなどはマスクをつける人々が少なくなり、今のコロナ感染は風邪をひく程度の扱いのようです。

インドネシア政府によると今の増加した数字に対して心配はいらず、感染してもすぐ治り、死ぬことはないそうです。自分の近所の人々も行事で集まりがあるとき、50%以上の人々がマスクを使っておらず、皆コロナに対する怖さがなくなってきました。

KJI内では、政府の正式な発表でマスクを外していいという連絡が来るまでマスクの着用が義務付けられています。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

皆様いかがお過ごしでしょうか?カリフォルニアでは、この時期としては少し肌寒い気候が続いています。大体毎日、朝は曇っていて気温は15℃くらいしかありません。午後から太陽が顔を出すと25℃くらいで、中には30℃くらいまで気温の上がる日があります。乾燥しているせいなのか気温よりも涼しく感じます。カリフォルニアでは梅雨はありませんので、基本過ごしやすい気候です。なんとと言ってもゴルフ好きの私にとって、雨の心配が全く無いのは最高というしか他に表現の方法が見当たりません。

先日ニュースで、ゴールデンウィークに久しぶりにハワイへ観光に行った人たちの話題を見ました。その中で皆さんが共通して話していた事は、周りでマスクをしている人がいないことと物価が高くなっていることでした。両方とも事実です。観光地のハワイに限らず、アメリカ全土でマスク着用義務は解除され、また物価は高騰し続けています。例を挙げると、カリフォルニアでも

日本式のラーメン屋でラーメンと餃子一人前で消費税とチップを入れれば\$30(=3,800円)くらいはします。

今までコロナ禍であり気にしていなかったのですが、最近確かに高いなあと感じます。理由はもちろん長引くコロナの影響や、サプライチェーンの混乱、物流コストの上昇に加えて材料自体の値上がりもあるようです。

世界では未だコロナで苦しんでいる地域や、紛争や戦争で明日に希望が見られない人々も沢山いると思うと、複雑で物価などはとても小さな問題に思えます。これからもこれらの様々な影響が全世界に広がっていくのでしょうか?

さて先回お話ししました4回目ワクチン接種の件ですが、副反応は特に何も起こりませんでした。皆様もご自愛くださいませ。

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

このシンガポールの話は以前に聞いたことがあるかもしれませんが。素晴らしい街と呼ばれるシンガポールには、『罰金』について非常に多くの規制があります。

私は郊外に住んでいますが、家のすぐ前に、とある看板が新しく設置されました。内容は公共の場でポイ捨てをした人は、最高2,000S\$(日本円で約200,000円)の『罰金』というメッセージが書かれたものです。こういった看板が非常に多いので、人々がポイ捨てについて1000倍考えるようになったと思っています。こうした看板は厳格に規制された市内中心部だけでなく、基本的にどこにもあります。

この規則は、実際に人々を従わせる力を持っています。ポイ捨て禁止の習慣のない国(例えば、好きな場所にゴミを捨てる)からの訪問者も、シンガポールに到着すると自動的に態度を変えました。長い時間をかけて変化をさせていくと自然と良い癖になるでしょう。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

難民政策は、いつもデリケートな話題です。特にオランダのような小国では、永遠に受け入れ続けることはできません。誰もが幸せで安全な暮らしを望んでいますが、オランダは難民の受け入れに対して厳しい行動をとる必要があります。その点で、オランダの閣僚はデンマークの難民政策から多くを学ぶことができます。

デンマークの移住アプローチは、亡命希望者をゼロにすることを目指しています。2015年の欧州難民危機以来、難民の居住許可を5年から2年に短縮し、家族の呼び寄せは2年後から可能にするなど政府は政策を強化しました。

デンマークは、他のEU加盟国と同様に、国連難民条約および国際人権条約に拘束されています。しかしEU共通政策に加わらなくていいという権利を持つため、亡命手続きに関するEUガイドラインには拘束されていません。

オランダの自治体は、避難所がもう無く限界に達しつつあります。入国管理局の待合室では、十分な広さが無いため、140人が椅子で寝なければなりません。政府は難民のための避難所が手一杯であることを認めなければいけません。現在の住宅不足では解決することができず、難民の方も椅子で寝るのに苦労しており、悪化しています。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)